

日蓮大聖人は『生死一大事血脈抄』に、

「信心の血脈なくんば法華経を持つとも無益なり」

(御書五一五六)

と仰せです。血脈付法の御法主上人の御指南に従い、本門戒壇の大御本尊を固く信ずる以外に、大聖人よりの信心の血脈は流れ通かよわないのです。

よって、これらを否定し謗法を重ねる創価学会に籍を置いたまま、どれほど活動に励はげんでも、功德がないばかりか、かえって罪障を積むことになり、不幸になっていくのです。

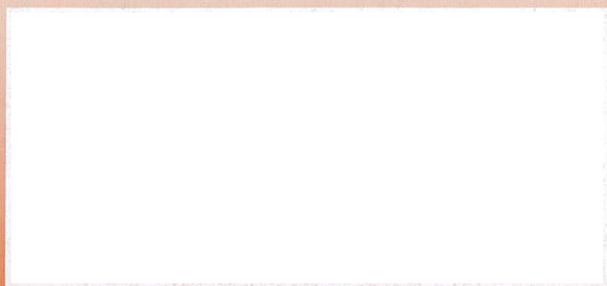


大石寺三門



大石寺奉安堂

あなたは、日蓮大聖人の教えによって、成仏しよういんぶつしようと志しているのですから、謗法団体と化した創価学会を離れ、信心の正しい血脈が流れる日蓮正宗の信仰に帰り、揺ゆるぎない真の幸福境涯きふこうけいがいを築いてまいります。



大日蓮出版
[1] H25.2



日蓮正宗HP
QRコード

それでもあなたは

創価学会を

信じますか？

— 信仰の根本を変えてしまった創価学会 —

日蓮大聖人の仏法の根本は、本門戒壇の大御本尊と唯授一人の血脈相伝けちみくにあります。かつて池田第三代会長も、「唯一の学会精神」「創価学会の根本」について次のように指導していました。

「御法主上人猥下わうげに対しては、御法主上人猥下こそ經文に説かれている遣使還告けんしんてうのお立場、すなわち大聖人様と拝してお仕え申し上げていくことでありました。これが唯一の学会精神であります」

（会長講演集四―一四五頁―）

「日蓮正宗創価学会の根本中の根本は、一閻浮提いちえんぶだい総与の本門戒壇の大御本尊であることはいうまでもない。しかもその大御本尊は、日蓮正宗に厳然げんぜんとおわします。そして宗祖大聖人より第二祖日興上人、第三祖日目上人と代々の御法主上人猥下わうげが法水瀉瓶ほつすいしゃびん・血脈相承けつみくそうじやうされ、現在は、第六十七世日顕上人猥下わうげに、いっさい受け継がれているのである」

（広布と人生を語る―一三二―一三三頁―）

変節した創価学会

以上の指導内容から明らかのように、創価学会は発足当時より、本門戒壇の大御本尊と日蓮大聖人以来の唯授一人の血脈を信受することを基本としてきました。

しかし現在の指導は、大御本尊を単なるモノと軽視けいしし、血脈相伝を否定するものとなっていることは明白です。その結果、創価学会は『二七本尊』を作製・販売したり、血脈を所持される御法主上人を誹謗中傷ひぼうちゆうきやうするなど、三宝破壊の大謗法を犯し続けているのです。

このように、ひとりの指導者の変節によって、本来、不変であるはずの信仰の根本が簡単に変わってしまう宗教団体は、信ずるに値あたしないのは当然でしょう。